

全国社会的課題委員会



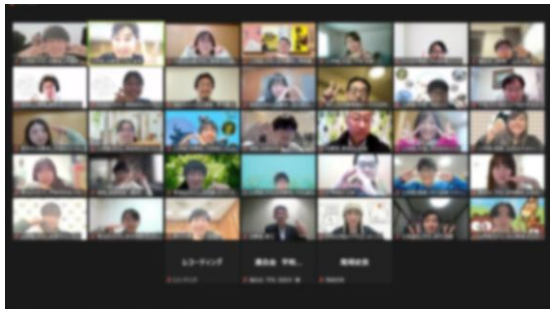
全国大学生協連
学生委員会
学生委員長 高橋明日香
編集者 杉山直輝

23/6/10(土)

第2回全国社会的課題委員会

概要

名称：2023年度 第2回 全国社会的課題委員会
日程：2023年6月10日(土) 13:00～17:00
場所：オンライン(Zoom)での開催



参加者(敬称略)

- 委員長：後藤有里(東京ブロック副運営委員長)
- 副委員長：木下高志(大阪大学生協 専務理事)
- 生協職員：吉山(中四事業連合専務)
- ブロック事務局：古屋(北海道BK)、伊藤、田中(東北BK)、戸張、山田、紺野、渡邊(東京BK)、伴(東海BK)、出口(関西北陸BK)、栗岩(中四BK)、吉村(九州BK)
- 階層別組織委員会：高橋、鳥井、古橋、杉山、中野、加藤、中丸、梅田、平間、上木(全国学生委員)
- 全国大学生協連：中森(専務理事)、藤江・田足井(理事会室)

チーム別協議の時間

全国社会的課題委員会(以下、全社委)は、「環境」「平和・国際貢献」「激甚災害支援・防災」「消費者」の4つの分野を軸にしたチームに分かれ、具体的に討議をしています。それぞれのチームでの協議の様子は以下の通りです。

00 分野にわかれて 具体的に協議

a.環境チーム

開催日：5月16日(火)
環境チームでは第2回目チーム別協議を行いました。初めに、この間の各地での取り組みの報告を行いました。また、**来年度の新学期時期における推進についても議論しました。**
そして、次回10月12日開催のかんきょ～ずミーティング#2について、どのような内容にするかについても話し合いました。前回のチーム別協議でおこなった行動宣言を振り返り、**これからの推進に繋げるために宣言を見直しました。**

b.平和・国際貢献チーム

開催日：5月30日(火) 19:00～20:00
初めに連合会が取り組んでいる平和に関する取り組みを紹介した後、「国際貢献分野」の取り組みについてみなで考えました。学生常勤メンバーで訪問したユニセフハウスの報告を通して、**私たち大学生協とユニセフは同じ想いを持って活動していることを再認識することができました。**
国際貢献の活動を知り、今ある活動に「**ちょい足し**」できるか考えてみることも大切ですね！各ブロックで何ができるかも考えることができました。

c.激甚災害支援・防災チーム

開催日：5月31日(水)18:30～20:00
はじめに新学期時期の激甚災害支援・防災に関する取り組みを振り返りました。**ふくしまスタディツアー**については、方向性やプログラム内容を検討しました。また、**MottaCa**の内容について、必要な情報やレイアウトを選定し直し、9.1に向けて発信していくことを確認しました。
検討を通して、チームの中で防災の意識を高め、どのように組合員にうまく広げていくかを考えることができました。

d.消費者チーム

開催日：5月29日(月)16:00～17:30
消費者チームでは、最初に**新学期活動と消費者月間(5月)**の振り返りを行いました。そこでは、金銭トラブルやカルト団体などの予防を呼びかける取り組みがあげられました。また来年度は消費者活動を、「**学生生活、学業に支障が出るから、気を付ける必要がある**」と提案していきたいという意見も出ました。
次に、「**ダメされないチカラ養成ハンドブック**」の活用方法と夏休みに向けた消費者被害防止活動について考えました。就活詐欺やブラックインターンなどの予防活動などを意見を出し合うことが出来ました。

01 LGBTQ学習会について

大学生協としてどう動いていくべき？

午前中に行ったLGBTQ学習会について大学生協として何をしていくのか協議しました。

初めて学んだ人も多く、一人ひとりが個性があり、マジョリティが当たり前として、捉えるべきではないということを再認識することが出来ていました。まずは今回の学習会に参加したメンバーを筆頭に、日常生活や大学生協の事業や活動の中に視点として、取り入れていきたいです。またまず最初の意識付けとして、当日の学習会の見逃し配信を視聴促進を行うことの確認を取りました。

大学生協全体として、LGBTQのはじめとした様々な多様性を認め、活動や事業の中で、差別を感じさせないような工夫を取り込んでいけるようにしていきます。

人は一人ひとり違うってことをかみしめないといけない。こういう場合はこうだから、って考えないようにしないといけない。生きにくさがあるから、それを理解して生きていかないと。思った。(職員)

学生委員や大学生協の取り組みで、差を意識させない取り組みを取り入れる。まだマイノリティだから浮いているだけで、広がれば当たり前になる。当たり前にあるんだという社会のしくみをつくっていく。店舗、社会とかいろんなときに。ユニバーサルデザインなど。(学生)



02 店舗における社会的課題活動について

社会的課題×店舗の取り組みを推進していくには？

今年度は社会的課題×店舗の取り組みを軸にしています。今回の協議では食堂等における「食べ残し」に焦点を当て、協議をしました。

実際に食べ残しが生まれる場面や遭遇した場面を話し合いました。内容としては「食べ残し」自体があまり多くない傾向がありました。しかし今後、コンパ等で食を提供する際に増加していく可能性があるかと懸念される部分もありました。

全体として、「売れ残り」である廃棄量を心配する声が多く、現状を把握するために、全国で廃棄量の計測をしていきたいです。実際にどうしても残ってしまうものについては堆肥する取り組みなども行っている会員もいるので、参考にして広げていきたい。

人の意識の差はある。自分も残さないようにしている。どんな工夫ができるかというところでは、まずは残さないという意識を持ってもらおう。ハーフサイズを選択できる食堂もある。味に関してはイメージしやすい説明などができれば。(学生)

自分が職員の時は、購入だと売り切れにしないということが大事だった。売れ残るということに関しては意識はなかった。購買の取り組みに関しては何かアプローチできた。ただ、どうしても残る食べ残しは堆肥にするとかの取り組みはできると思う。

03 平和について

大学生協が平和について考える意義とは？

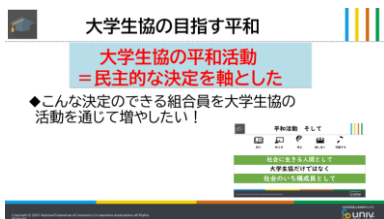
この間の平和分野の活動の紹介を中心に、大学生協としてどのように平和分野を推進していくかについてみんなで考えました。今年も広島・長崎・沖縄の3地域でPeaceNow!が開催されます。3地域の現在の進捗状況の紹介を行い、参加促進を呼びかけました。しかし、ただPeaceNow!に参加してもらうだけではなく、各ブロックや単協でも平和活動を始めてもらうにはどうすればよいかを考えました。

また、今年度も連合会で取り組んでいる「#未来へのバトン」に全国社会的課題委員会のメンバーも登場します。メンバーみんなで平和への想いをつなぎます。

太平洋戦争では自分の地域も被害があった。自分の住んでいる近くにも、原爆ドームみたいなところがある。自分の地でどんなことがあったのかを伝えていきたい。(学生)

平和＝戦争廃絶だけではないとおもうし、そこを深掘っていくことが大学生協のよりよい生活と平和につながる。(学生)

会員の外にできることをやらない。考えることが苦手な人がいる。いざ話してみたらできる人もいる。広げるというより、であっていいイメージ。学んだら、広げていっては欲しい!(職員)



政策討議を制作執行に繋げます

+ α 地域報告で報告された、注目する取り組みとポイント



環境

千葉大学生協「折りたたみ水筒」

5月8日より、学内外で環境活動やSDGsに取り組む学内他団体が企画・考案した「折りたたみ水筒」を大学生協店舗にて販売。学内の構成員と協同で環境活動に取り組むことができていました。

静岡大学生協「ごみ出しの説明」

静岡大学は下宿生が多く、ごみの出し方を知らずに下宿生活を始める組合員が多い。そこでルールを理解してもらい、正しくゴミを出してもらうため、静岡市と協力してゴミ出しの説明を行った。



愛媛大学生協「生協・教科書ガイダンス」

生協・教科書ガイダンスにて、リ・リパックをはがす体験、樹恩割りばしの紹介をした。新生入生に大学生協で取り組んでいる環境保全活動や使用している意図を知ってもらうことで、自身で選択し行動できる組合員が増えてほしい。

激甚災害支援・防災

茨城大学生協「学生委員会紹介inサポートセンター」

サポートセンターで新生入生に学生委員会について伝えたいという思いからブースが設置され、その中で防災のコーナーを設けていました。具体的にはハザードマップの設置や非常食の販売等を行い、新しい土地で災害に遭った場合でも対応できるように呼びかけられていました。県外から来た新生入生・保護者も、気軽にぼうさいについて考えられる機会につながっていました。



三重短期大学生協「避難訓練の参加・発信」

大学が開催している避難訓練に参加し、参加報告をSNSに報告していました。三重短期大学は巨大地震の津波到達エリアであり、実際に避難経路を確認したり、統率を取ることに難しさに気がついていました。自分たちで独自に取り組むことは難しくても、地域や他団体と連携・企画に参加することで防災活動に取り組むことができていました。また、SNSの発信で、参加者だけでなく多くの組合員に広がっていました。

平和・国際貢献

立命館大学生協BKCキャンパス「不在者投票ブース」

不在者投票のブースを学内に設置し、投票に来た人たちの質問を学生委員会が直接回答しました。投票への呼びかけだけでなく、大学生協が社会的課題に取り組んでいることを知ってもらうことができました。

静岡文化芸術大学生協「フードロスカフェ in 総代会」

売れ残ってしまったフェアトレード商品に「カフェ」という付加価値をつけて販売すると、売れ残りを減らせるのではないかと、この考えから生まれた企画です。今回は総代会内でのブース出展ということで金銭はとりませんでした。大学生協のかかえるフードロス問題の現状を総代を含めた多くの組合員に知ってもらうきっかけとなっていました。合わせて理事長の先生との連携も見られました。



消費者

東京電機大学生協「新生入生歓迎会@Zoom」

新生入生歓迎会の中で、大学生のリスク(睡眠不足、金銭トラブル、飲酒・アルコール依存)について扱った。また「事故による高額賠償」、「大学生を狙う投資詐欺」、「友人とお金の貸し借り」などを取り上げ、話をしていました。教訓点としては新学期活動と社会的課題の視点を結びつけて取り組みことが出来ている点や新生入生歓迎会の場で大学生活ならではのリスクを伝えることが出来ている点などがあげられます。

関西北陸ブロック(京滋奈良エリア)「消費者タスクチーム」

外部講師を招き、今年度の消費者月間のテーマである「デジタル社会と消費トラブル」について学びました。その後、消費者月間の発信に向けて、準備を行いました。ネット通販や架空請求、暮らしのレスキューなどの消費者トラブルの事例を学びました。グループワークの中では、SNSやスマホ決済などの話になり、普段何気なく使っているモノの不安を解消したり、注意喚起をしていきたいという共通認識を取ることが出来ました。

ダメされないチカラ養成ハンドブックの配布や紹介

北海道ブロック学生委員会、愛知県公立大学生協、静岡大学生協、広島修道大学、東京ブロック学生委員会など全国各地で「ダメされないチカラ養成ハンドブック」の紹介や配布が行われていました。



政策討議を制作執行に
に繋がます

